

## 【マンスリーレポート】



日本株ロボット運用投信

**愛称：カブロボファンド**

追加型投信／国内／株式／特殊型

作成基準日：2018年1月31日

※本資料は、原則として表示桁数未満を四捨五入していますので、合計の数値とは必ずしも一致しません。

※運用実績および分配実績は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

## 商品概要

設定日	2009年7月29日
信託期間	無期限
決算日	6月15日 (休業日の場合は翌営業日)
信託報酬率	年 1.512% (税抜 1.40%)
基準価額	12,245円
純資産総額	1,222百万円

## 分配実績 (1万口当たり、税引前)

第5期	2014年6月16日	0円
第6期	2015年6月15日	500円
第7期	2016年6月15日	0円
第8期	2017年6月15日	500円
設定来分配金合計		1,000円

## 期間別騰落率

過去1か月	-0.1%
過去3か月	2.5%
過去6か月	5.9%
過去1年間	8.2%
過去3年間	14.6%
設定来	33.3%

※収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 基準価額の推移 (設定来:日次)

※分配金再投資基準価額は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。なお、基準価額および分配金再投資基準価額は信託報酬控除後です。



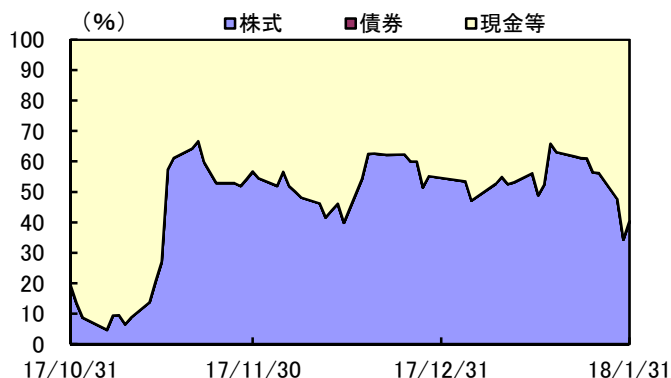
## 資産配分

株式	40.4%
債券	—
現金等	59.6%

※ベビーファンドの実質組入比率です。

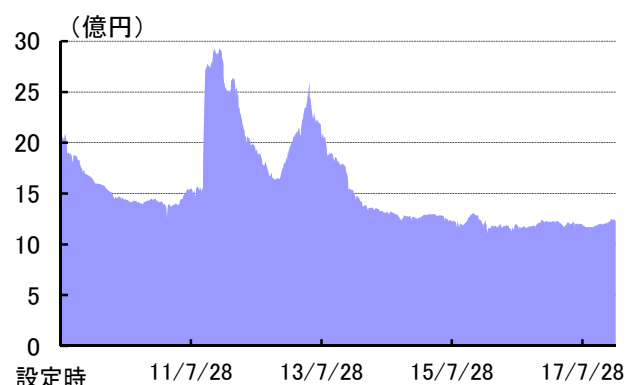
※債券には現先取引により取得したものを含まず。

## 資産配分の推移 (直近3か月:日次)



※ベビーファンドの実質組入比率です。

## 純資産総額の推移 (設定来:日次)



※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&amp;Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasasset.co.jp/>

## 組入上位10銘柄

## ◆ 株式

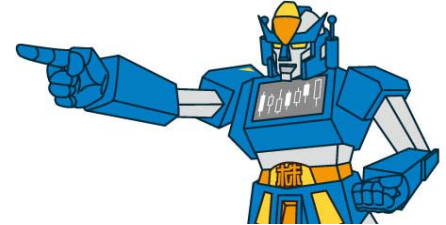
No.	コード	銘柄名	業種	組入比率
1	8905	イオンモール	不動産業	2.3%
2	6506	安川電機	電気機器	2.3%
3	8053	住友商事	卸売業	2.2%
4	1605	国際石油開発帝石	鉱業	2.2%
5	8058	三菱商事	卸売業	2.2%
6	4911	資生堂	化学	2.2%
7	6902	デンソー	輸送用機器	2.1%
8	8750	第一生命ホールディングス	保険業	2.1%
9	7202	いすゞ自動車	輸送用機器	2.1%
10	7203	トヨタ自動車	輸送用機器	2.1%

## ◆ 債券

No.	銘柄名	組入比率
1	—	—
2	—	—
3	—	—

## その他

※ベビーファンドの実質組入比率です。  
※現先取引により取得したものを含みます。



## その他

10銘柄

18.7%

※ベビーファンドの実質組入比率です。

## 運用コメント

## 【国内株式市場】

当月の国内株式市場は、半ばまで上昇が続きましたが後半は下落しました。前半は、世界的な景気拡大が続くとの見方から年明けに急騰し、高値圏での推移となりました。後半は、米国の決算発表が好調なことで主要な米国株式指数が堅調となり、それに連れる形でTOPIXも高値を更新していきましたが、米国要人のドル安容認発言やヘルスケアセクターの下落により、上げ幅を縮小しました。

こうした動きにより、TOPIXは前月末比1.1%上昇し、1,836.71ポイントとなりました。

## 【運用概況】

当月末の基準価額は、前月末比で0.1%下落し、12,245円となりました。当月中の売買件数は77件、売買代金は約14億7千万円となりました。株式の実質組入比率は、月初55%の水準から、50%前後の水準で運用し、中盤にかけては60%台の水準まで引上げた後に徐々に減らしていききました。月末時点では40.4%となっています。

各ロボットの投資基本配分比率は、NtRider-Exp 20%、mikazuki 30%、SD 40%、Event Catcher 10%で運用しました。基準価額変動の主な要因ですが、プラス面として、短期間の売買をするタイプのEvent Catcherと組入比率が高位となるタイプのSDの成績がプラスになったことが挙げられます。なお、投資比率を考慮した基準価額への貢献度は、SD、Event Catcher、NtRider-Exp、mikazukiの順となりました。

※当ファンドの投資顧問会社であるトレード・サイエンス株式会社より入手した運用コメントをもとに作成しています。

※各ロボットが同一銘柄の売りと買いを同タイミングで行った場合、相殺して発注を行いますので、文中の売買件数および売買代金は、各ロボットの合計と相違する場合があります。

## 各ロボットの運用概況

## ◆ 各ロボットへの投資比率

No.	ロボット名	基本配分比率		実績比率
		前月末	当月末	当月末
1	NtRider-Exp	20.0%	20.0%	18.7%
2	mikazuki	30.0%	30.0%	29.2%
3	SD	40.0%	40.0%	42.6%
4	Event Catcher	10.0%	10.0%	9.4%
合計		100.0%	100.0%	100.0%

※「各ロボットの運用概況」の表中の数値および運用コメントは、当ファンドの投資顧問会社であるトレード・サイエンス株式会社より入手しております。

\* 左記の投資比率は、対マザーファンド純資産総額です。なお、各ロボットの投資比率には、株式以外(債券・現金等)も含まれます。

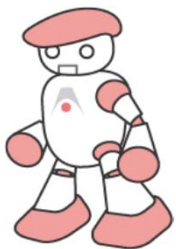

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

## ◆ 各ロボットのパフォーマンスおよび運用コメント

1. NtRider-Exp		採用日: 2009年7月29日				
	<b>ロボットの特徴</b> 株価の値動きの平均回帰性を運用に生かす。相場状況をロボットが自律的に学習し、採用する変数の値を調整する人工知能機能を搭載する。	<b>運用コメント</b> 当ロボットは、当月は月上旬に組入機会があり、短期的な売買を中心に取引しました。売買代金は約1億3千万円でした。ロボットの成績は▲0.4%となりました。個別銘柄では、住友ゴム工業やキャノンがプラスに寄与し、スタートトゥデイや楽天などがマイナスに寄与しました。				
	<b>期間別騰落率</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>過去1か月</th> <th>過去3か月</th> <th>採用日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-0.4%</td> <td>-0.4%</td> <td>50.4%</td> </tr> </tbody> </table>		過去1か月	過去3か月	採用日	-0.4%
過去1か月	過去3か月	採用日				
-0.4%	-0.4%	50.4%				
2. mikazuki		採用日: 2009年7月29日				
	<b>ロボットの特徴</b> 米相場から生まれた古来より伝わる伝統的な野線分析、ローソク足分析を現代流にアレンジしたロジックを使用し、投資家心理の急所を巧みに捉えることを収益源とする。	<b>運用コメント</b> 当ロボットは、当月は主に中旬以降に組入機会を持ち、月末にかけて組入比率を減らしながら短期的な売買を中心に取引しました。売買代金は約8億6千万円でした。ロボットの成績は▲0.7%となりました。個別銘柄では、第一三共や参天製薬などがプラスに寄与し、三井金属鉱業や麒麟ホールディングスなどがマイナスに寄与しました。				
	<b>期間別騰落率</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>過去1か月</th> <th>過去3か月</th> <th>採用日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-0.7%</td> <td>0.3%</td> <td>78.7%</td> </tr> </tbody> </table>		過去1か月	過去3か月	採用日	-0.7%
過去1か月	過去3か月	採用日				
-0.7%	0.3%	78.7%				
3. SD		採用日: 2016年8月1日				
	<b>ロボットの特徴</b> 決算発表後の値動きに注目し、保有株を替えるロボット。大型株を対象にする。市場全体の変動率を監視し、荒れた相場では組入比率を下げるなど、暴落を回避する。	<b>運用コメント</b> 当ロボットは、下旬に限定的に売買機会があり、先月以前から保有していた銘柄を中心に取引しました。売買代金は約3億6千万円でした。ロボットの成績は+0.7%となりました。個別銘柄では、第一三共や小松製作所などがプラスに寄与し、東京海上ホールディングスや日本電産などがマイナスに寄与しました。				
	<b>期間別騰落率</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>過去1か月</th> <th>過去3か月</th> <th>採用日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.7%</td> <td>7.1%</td> <td>33.0%</td> </tr> </tbody> </table>		過去1か月	過去3か月	採用日	0.7%
過去1か月	過去3か月	採用日				
0.7%	7.1%	33.0%				
4. Event Catcher		採用日: 2017年7月1日				
	<b>ロボットの特徴</b> 決算発表や出来高の急増などを監視し、ポジティブなイベントの発生を収益機会として捕らえる。イベント後の短期的なトレンドに乗ることで、リスクの少ないリターンを狙う。	<b>運用コメント</b> 当ロボットは、当月は主に中旬に組入機会があり、短期的な売買を中心に取引しました。売買代金は約1億2千万円でした。ロボットの成績は+0.8%となりました。個別銘柄は、ディップやオーエスジーなどがプラスに寄与し、ビックカメラや不二越などがマイナスに寄与しました。				
	<b>期間別騰落率</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>過去1か月</th> <th>過去3か月</th> <th>採用日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.8%</td> <td>0.7%</td> <td>1.1%</td> </tr> </tbody> </table>		過去1か月	過去3か月	採用日	0.8%
過去1か月	過去3か月	採用日				
0.8%	0.7%	1.1%				

\* 各ロボットの期間別騰落率は、各ロボットに属する株式、債券、現金等を合計した時価評価額をもとに算出しています。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

## ファンドの目的・特色

## ファンドの目的

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## ファンドの特色①

- ◆ わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、複数のカブロボが機動的な売買を行うことで、中長期的な信託財産の成長を目指します。
- ◆ ファンド内で稼働するカブロボは、カブロボ・コンテストで優秀とされたカブロボ等の中から、投資顧問会社トレード・サイエンス株式会社が選定し、同社がロボットの指示に基づき投資助言を行います。
- ◆ 投資環境の変化等に応じて、採用するロボットおよび各ロボットへの投資配分等の変更を行い、その局面で最適と考えられる運用を行います。

※ 資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。

## カブロボとは？

カブロボとは、複数のマーケットデータを取り込んだ後、株式の売買注文を自動生成するコンピュータ・プログラムで構成されるロボットです。

- 各ロボットは、あらかじめ組込まれたプログラミングにより分析を行い、ポートフォリオや個別銘柄(売買銘柄・数量等)を決定します。
- 各ロボットは、前・後場ごとに東証第一部上場銘柄のうち、投資ユニバースとなる約500銘柄の取引データを取り込み、自動的に売買注文を作成します。

\* 空売りは行いません。

\* ロボットのしくみは、今後変更となる可能性があります。

\* 株式市場の状況によっては、株式の組入比率がゼロまたは数%の水準で、ある程度の期間続くことがあります。この場合、余資の効率運用の観点から、短期債券等を組入れることがあります。  
(株式の組入比率がゼロの状態でも信託報酬はかかります。)

## カブロボ・コンテストについて

- カブロボ・コンテストとは、常時開催中のプログラミングコンテストです。
- 定期的な審査を行い、常に優秀なロボットの開発・改良に務めています。
- 2004年から運営しており、参加者は延べ23,000人を超えています。  
(2017年6月末日現在)

## トレード・サイエンス株式会社について

トレード・サイエンス株式会社は、多くの企業や大学およびその関係者、マネックス・ビーンズ・ホールディングス株式会社(現マネックスグループ株式会社)によって2006年に設立されました。2007年にはカブロボによる投資助言サービスを開始し、2008年にマネックスグループ株式会社の完全子会社となりました。

トレード・サイエンス株式会社では、推論アルゴリズムやニューラルネットワーク等の情報系の先端研究を金融工学に応用することを標榜して、多様なアプローチによるカブロボの研究開発を行っています。ファンドにおいては、それらの技術を活用しています。

\* トレード・サイエンス株式会社は、委託会社と締結した投資顧問契約に基づき、委託会社に提供した投資助言の内容を、マネックス証券株式会社およびマネックスグループ株式会社に提供することはありません。また、マネックス証券株式会社およびマネックスグループ株式会社は、ファンドの投資助言に関与することはありません。

\* マネックス証券株式会社およびマネックスグループ株式会社は、当該会社および当該会社の役職員が、トレード・サイエンス株式会社から委託会社に提供された投資助言の内容を利用して自己または第三者の計算において有価証券等の売買を行うことがないように十分な措置を取ることとしています。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasstet.co.jp/>

## ファンドの特色②

## 運用プロセス

ファンドは、複数のロボットを組合わせて運用を行います。ロボットの選定・投資銘柄・数量等決定のための情報提供および助言をトレード・サイエンス株式会社がを行います。

ロボット選定  
プロセス※1

カプロボ・コンテスト参加者  
延べ23,000人以上

.....シミュレーション運用環境によりランキング※2

シミュレーション運用中ロボット  
(2,000体以上)

.....審査を通過したロボット等を実運用投入へ向けて育成

育成ロボット  
(約50体)

.....実運用に向けてのチューニング作業

優秀なロボットの  
継続的な発掘と入替え

ロボットユニバース構築  
(数体~20体程度)※3

.....運用対象となるロボット

実運用ロボット  
(数体~10体程度)※4

ポートフォリオ構築  
プロセス※1

投資ユニバース構築  
東証第一部上場銘柄より時価総額・売買代金・業種を勘案し、  
約500銘柄を選定

実運用ロボット  
(数体~10体程度)※4

相場局面に応じた  
ファンド運営

マスターロボット  
ロボットへのアロケーション決定  
各ロボットの注文内容の取りまとめ  
ポートフォリオ管理と資産に応じたリスク管理

ファンドの継続的な進化が期待

ポートフォリオ構築  
トレード・サイエンス株式会社の助言によりポートフォリオを構築

※1 上記の「ロボット選定プロセス」および「ポートフォリオ構築プロセス」は本資料作成時点のものであり、今後変更となる可能性があります。

※2 各ロボットは、アルゴリズムの考え方についての評価をはじめ、定性・定量両面からの他に、独自の評価項目から多面的に評価、ランキングされます。

※3 ロボット・ユニバースに含まれるロボットの数は、開発および改良の状況やシミュレーション結果により変動します。

※4 実運用ロボットの数は、開発および改良の状況やシミュレーション結果により変動します。



※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時~午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasstet.co.jp/>

## 投資リスク

## 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。

したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

株価変動リスク	株式の価格は、発行企業の業績や財務状況、市場・経済の状況等を反映して変動します。特に企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株価が大きく下落し、基準価額が値下がりする要因となります。
その他のリスク	株式市場の状況によっては、株式の売買が数多く発生し(売買回転率の上昇)、多額の売買コストが発生する可能性があります。 ロボットが機能しない等システム運用関係の不慮の出来事に起因するリスクが生じる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

## ●分配金に関する留意点

- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。  
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## ご留意いただきたい事項

- 本資料はT&Dアセットマネジメントが作成した販売用資料です。本資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に掲載されているグラフ、パフォーマンス等の内容は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。本資料に掲載されている意見・見通しは表記時点での当社の判断を反映したものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、株式および公社債等値動きのある有価証券に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 投資信託のご購入時は、各販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

## 手続・手数料等

## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ありません。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入、換金の申込の受付を中止することおよびすでに受付けた申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(平成21年7月29日設定)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、その他やむを得ない事情が発生した場合等には、繰上償還となる場合があります。
決算日	6月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 販売会社との契約によっては、税引後無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	150億円
公告	委託会社が投資者に対してする公告は、原則として電子公告により行い、委託会社のホームページに掲載します。
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知っている受益者に交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用はありません。

## ファンドの費用

<b>投資者が直接的に負担する費用</b>	
購入時手数料	購入価額に、 <b>3.24%(税抜3.0%)</b> を上限として販売会社が個別に定める率を乗じて得た額とします。 購入時手数料は、ファンドの商品説明、販売にかかる事務費用等の対価です。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に <b>0.3%</b> の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。
<b>投資者が信託財産で間接的に負担する費用</b>	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、ファンドの純資産総額に <b>年1.512%(税抜1.40%)</b> の率を乗じて得た額とします。 ファンドの運用管理費用(信託報酬)は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または償還時にファンドから支払われます。 信託報酬＝運用期間中の基準価額×信託報酬率 [運用管理費用(信託報酬)の対価の内容] 委託会社:委託した資金の運用等の対価 販売会社:購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社:運用財産の保管および管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他の費用・手数料	・信託財産にかかる監査費用および当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。 ・証券取引に伴う手数料、組入資産の保管に要する費用等は、信託財産中から支弁します。 これらの費用・手数料については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ 上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

T&Dアセットマネジメント

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasset.co.jp/>

## ファンドの関係法人の概況

[ 委 託 会 社 ] ◇ 信託財産の運用指図等を行います。  
**T&Dアセットマネジメント株式会社**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第357号  
加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

[ 受 託 会 社 ] ◇ 信託財産の保管・管理業務等を行います。  
**三菱UFJ信託銀行株式会社**  
(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

[ 投 資 顧 問 会 社 ] ◇ マザーファンドの運用のための情報および助言等の提供を行います。  
**トレード・サイエンス株式会社(投資助言)**  
投資顧問会社は変更になる場合があります。

[ 販 売 会 社 ] ◇ 受益権の募集・販売の取扱い、換金(解約)事務、換金代金・収益分配金・償還金の支払い等を行います。

**マネックス証券株式会社** (2018年2月1日現在)  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会

**あかつき証券株式会社**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号  
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会

**エース証券株式会社**  
金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号  
加入協会／日本証券業協会

**SMBC日興証券株式会社**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号  
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

**日産証券株式会社**  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第131号  
加入協会／日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会

※本資料をご覧いただくにあたっては、6ページの「ご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

■ 設定・運用は

**T&Dアセットマネジメント**

電話番号 03-6722-4810 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時)  
インターネットホームページ <http://www.tdasst.co.jp/>